



11月は『アキノキリンソウ』

You Ain't Heard Nothin' Yet ! ヤー!

Vol.30 2021.11.10 えんじょい工房・『YAH!』編集室

沈黙は共犯者

二〇二一年にノーベル平和賞を受賞したジャーナリストのひとことである。選挙、ひとりくわいが頑張ったところで世の中変わるものかと諦めて：そんな人がおおよそ全体の半数近くもいて、結局のところ、そんな参加せぬ者、意志を持たぬ（表に出さない）者がかえって世の動きを左右してしまうことになる。変化も停滞も無い、とにかく情性を許し、臭いものには蓋をし、困難を伴うかもしれないが流水を拒んで淀みの中でただ漂うのみ、まさに深い闇である。

緊張を嫌う意識が世の中を席卷し、それを育て、ほくそ笑む側に居る者たち或いはそこに居ると思いたい者たちの思惑通り、時代は引き続き淀み続けることとなる。大声を張る必要はないが、少ない、いくらか小さい影響とはいえ、小さいからこそチャンスを放棄してはならない、結果は結果として受け入れなければならぬが、参加せぬものに蹂躪される現状に歯がゆさとともに、無力感と言ってしまうのは同じことになってしまふが、やはり大いなる憤りと多少の情けなさを感じてしまふ。

道

【こんな映画を観てきた】

粗野なザンパノ（アンソニー・クイン）と心の優しいジェルソミーナ（ジュリエッタ・マシーナ）に“キ印”（リチャード・ベースハート）と呼ばれる青年が絡んで、悲惨さの中に本当の人間性を感じ取り、まさに人としての生きる“道”を教えてくれた。すでにリバイバル上映で、オンタイムではなかったが（実はこの映画と同年である）、当時これは2度観るのはちよつとつらいなと思つた記憶があり、テレビ上映も幾度かあったが観ることはなかった、部屋でコーヒースすりながらリラックスして鑑賞するような作品ではない。後悔、懺悔そして孤独、砂浜でのザンパノの嗚咽がやがて夜の闇の中に溶け込むエンディングが忘れられない。

音楽は二ノノ・ロータ。主題曲「ジェルソミーナ」はまさに名曲中の名曲と言われ、時代を越えて流れつづけている。ここから、「太陽がいっぱい」（1960）、「シシリアン」

アン」（1969）、「ゴッドファーザー」（1972）と続くが、いずれもすっかりスタンダードナンバーである。とりわけ個人的には「シシリアン」のテーマが好みで、これが「ゴッドファーザー」の愛のテーマ”につながることになるのだが、アメリカに渡ると、楽曲としては完成度は上がるのかもしれないが、何かしら削ぎ落とされて映画音楽としてその機能を失ってしまつたといつては：むろん言いすぎだろう。

昭和の“沁みる”唄

『さよならをするために』

作詞 石坂 浩二
作曲 坂田 晃一
唄 ビリーバンバン

過ぎた日の微笑みを みんな君にあげる
ゆうべ枯れた花が 今は咲いているよ
過ぎた日の悲しみも みんな君にあげる
あの日知らない人が 今はそばに眠る
温かな屋下がり 通りすぎる雨に
濡れることを 夢に見るよ
風に吹かれて 胸に残る想い出と
さよならをするために

『道』 -1954・伊-

監督：フェデリコ・フェリーニ
ザンパノ：アンソニー・クイン
ジェルソミーナ：ジュリエッタ・マシーナ

